

水俣病の「株運動」暗礁に

チッソ株分割できず

会社側 手数料(一株) 50円 で対抗

水俣病を発売しようと、「一株運動」を続けている「東京 水俣病を発売する会」(東京・西新橋)などは十五日朝、全国一斉にこれまで買い集めたチッソ会社の株券三万株を各地の銀行に持ち込み、これを全部一株券に替える分割手数料を取り出した。しかしチッソ会社側が急に分割手数料五十円を取ることにしたため手数料を取らず、一株運動は暗礁に乗り上げた形になった。

「一株運動」は七月初めの「発売する会」が全農、一般人に呼びかけを始め、各地から送金や激励の手紙が殺到した。同会は街頭カンパの金と合わせて買い集めた三万株を東京、大阪、横浜などの銀行で分割し、その一株券を出来るだけ大ぜいの人に分け、十一月に大阪で開かれる予定のチッソ会社の株主総会に巡礼券などで繰り込み、水俣病に対する会社の責任を追及するつもりだ。

東京ではこの日午前十時半、東京・虎ノ門の中央信託銀行の門支店に同会会員十一人が集わり、千株、百株券を二万四千五百株

を出し、行員に一株ずつに分割するよう求めた。ところが、銀行側が「一株券一枚につき手数料五十円を取ることにした」とチッソ会社の意向を伝えたことでもめ、チッソ会社から株式相対費が駆けつ

け説明する騒ぎになった。チッソ会社は「株券の印刷代、印紙代などに金がかかるので」と説明、同会会員らが「時価は額面(五十円)を大きく割っているのに、五十円もの手数料を取るの

株の流動を妨げるものだ。どうしても急に取ることになったのか」と詰め寄ると「昨夜決めた。一株運動がひとつのきっかけである」と突っぱねた。